

WILDMAGIC アーバンアウトドア パーク



ファミリー客や仕事帰りのサラリーマンが集まる
豊洲に誕生した都市型キャンプ場

都心のビル群を望みながら
非日常感を味わう

最近、都市部でも休日に川辺や公園でバーベキューを楽しむ人たちがよく目にする。「レジャー白書2011」(公益財団法人日本生産性本部)によると、余暇市場全体が縮小するなかで、10年度の登山・キャンプ用品市場は前年比6・2%増の1710億円と2年連続で増加。もともと根強いファンが多いバーベキューやキャンプだが、近年のファッションやアパレルから派生したアウトドアブーム、震災以降の「絆」ブーム、または機材のレンタル業者の増加を背景に、気軽にはじめる人たちがふえているようだ。

こうしたなか、東京・銀座から直線わずか3km。高層ビルやマンションを対岸に望む東京湾岸に、都市型キャンプ場「WILDMAGICアーバンアウトドアパーク」(以下、ワイルドマジック)が7月8日オープンした(図表1・3)。約1万6000㎡に及ぶ敷地には、白いテントやヴィンテージデザインのコンテナ、サボテンなどが並び、東京のビル群を望みながらも、どこかアメリカにいるような雰囲気漂う。都心からアクセスがよく、手ぶらで本格的なバーベキューやキャンプが楽しめるとあって、多い日には1日1300人が来場するほど、連日にぎわいをみせている。

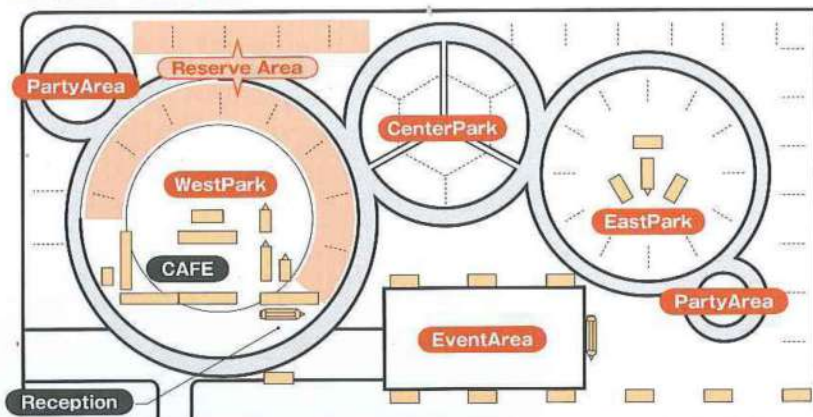
■ 図表1 施設概要

施設名	WILDMAGIC アーバンアウトドアパーク
所在地	東京都江東区豊洲6-1-23
開業日	2012年7月8日
企画・運営	スーパープロジェクト(株)
敷地面積	約1万6,000㎡
施設内容	オートキャンプサイト「THE THIRD PARK」(50区画)、カフェ「PITMASTERS」(120席)、イベントスペース「CONTAINER」、物販店、トイレ・シャワーなど
営業時間	24時間
平均客単価	3,000円
初年度来場者数	4万~5万人(見込み)
初年度売上高	1億3,000万円(見込み)

ワイルドマジックを企画・運営するのは、ブライダル施設やゴルフ場クラブハウスをはじめとした不動産のバリエーションアップ、飲食施設のプロデュースなどを手がけるスーパープロジェクト(株)(本社・大阪市西区、代表・斉藤雅人氏)。新交通ゆりかもめ・新豊洲駅前に位置するワイルドマジックは、民間企業の遊休地を最低5年の暫定事業として同社が賃借し、約1億円かけて開発したもの。同社エグゼクティブプロデューサーの原田康弘氏は自身が10年以上キャンプに慣れ親しむなかで、あらゆるシーズを肌で感じてきたという。

「キャンプやバーベキューに関心をもつ人はふえています。実際には始めるには機材を揃えるための初期コスト、機材の

■ 図表2 施設平面図



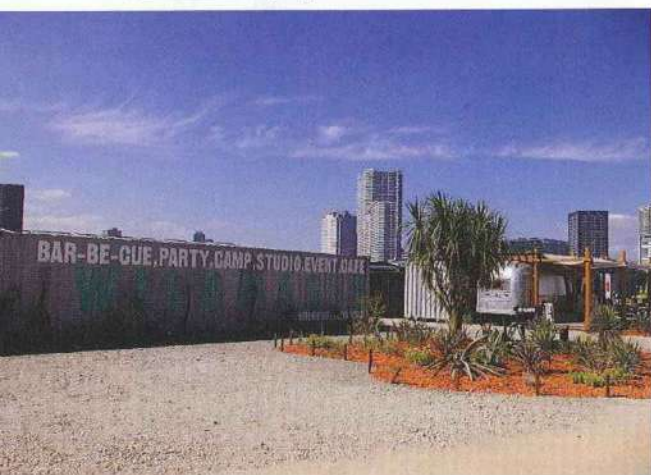
原田康弘氏

保管場所などがハードルになってきます。豊洲や台場エリアにはバーベキューができる公園がありますが最低限の設備が揃うのみ、レンタル業者は安さばかりを売

■ 図表3 周辺MAP



りにして簡易機材を取り扱うところほとんどです。欧米ではグランピング (glamorous+campingの造語) という言葉が生まれるほど豪華なキャンプが近年人気を集めています。日本でも地方のキャンプ場に高級車が止まっていることも



アメリカのような雰囲気が出るエントランス

珍しくありません。少し値段が高くともゆつたりとキャンプを楽しみたいというニーズは顕在化していると実感し、ならば初心者の人たちでも気軽に楽しめるような付加価値をもったキャンプ場がでないかと構想を抱いてきました」(原田氏)。

また、ワイルドマジックは単にアウトドアを楽しむだけでなく、家族や教育を考えたエデュケーションの要素を重視していることもポイントの一つで、台場・豊洲エリアはニューファミリー層が多く住むことから開発適地と判断された。そのなかで、同地は東京湾に面し、かつ東京タワーと東京スカイツリーが両方望めるロケーションのよさが立地選定の決め手となり、5年という事業期間でもキャンプ場は低コストで開発が可能で、貸主にとつても土地の価値向上が見込めることから実現に至った。

居酒屋需要も見込む 都市型キャンプ

ワイルドマジックの敷地内は5つのサークルで構成され、「感動の瞬間」の提供。新しい発見と発想の追求。次世代コミュニケーションの創造をテーマに、自家用車で乗り入れ可能なオートキャンプサイト「THE WILDPARK」のほか、アメリカから直輸入したカーゴトレーラー型のカフェ

「PITMASTERS」やイベントスペース「CONTAINER」などが配された。

キャンプサイトは全50区画。このうち20区画は初心者が手軽に楽しめるように、機材のレンタルや食材の用意、セッティングから後片付けまでをフルパッケージで揃えているのが特徴で、施設内には常時15人、休日には30人のスタッフが常駐し、わからないことがあればすぐにスタッフがサポートできる体制を整えている。

ただし、初心者向けでも一貫して重視するのは「本物の魅力追求すること」と原田氏は語り、父親がピットマスター(バーベキューを仕切る人) となつて、家族や友人たちと大人数でゆつくり楽しい時間を過ごす……そんな本格的なバーベキュー体験を目指し、1区画100㎡以上の広々としたスペースを用意した。

また、食材の焼きあがり待ちながらコミュニケーションを図るのもバーベキューの醍醐味で、そのためにワイルドマジックでは時間をかけて焼くアメリカンスタイルにこだわり、アメリカでシェアナンバーを誇るWEBBER社製のグリル、キングスフォード社の炭などを採用。さらに、テントやタープにはデンマークブランドのNORDISKやコールマンなどデザイン性にも優れた本格機材を揃えることで、従来のキャンプ場とは異なるスタイリッシュ感も演出している。



園内の看板などもデザイン性にこだわる



ゆっくり時間をかけて焼くアメリカンスタイルのBBQを提供



コンテナ型のトイレ兼シャワー

■ 図表4 キャンプサイトの料金表

		手ぶらコース (フルセットプラン)	場所貸しコース (セルフサイトプラン)
①	11時～16時 (昼食付き)	4,500円/人	6,000円/1サイト
②	17時～22時 (夕食付き)	4,500円/人	6,000円/1サイト
③	17時～翌10時 (夕食付き)	7,000円/人	1万円/1サイト

※手ぶらコースの利用は大人4人以上から。料金には、タープ、テーブル、ベンチ、グリル、ツール、包丁、まな板、クーラーBOX、食器を含む
 ※場所貸しコースは4人までの使用料。5人以上は1人当たり1,000円追加（最大利用人数15人程度・小学生以上含む）
 ※17時～翌10時までの利用の場合はキャンプセットプラン

キャンプサイトは完全予約制で、利用者はフルセットの「手ぶらコース」と、サイトのみをレンタルする「場所貸しコース」のどちらかを選択する（図表4）。日帰りはもちろん宿泊も可能で、利用時間は11時～16時か17時～22時、または宿泊を伴う17時～翌朝10時の3タイプ。時間一杯までゆっくり滞在する人が大半のようだ。

手ぶらコースは1サイト大人4人以上から受付け、日帰り利用の場合は1人当たり4,500円。「都市型キャンプ場は飲食店の新たな形態でもある」（原田氏）と捉え、ビアガーデンや居酒屋での消費額を目安に設定した。一般的なバーベキューと比較すれば少し高い印象も受

通常のキャンプ場は春と秋がピークシーズンで、暑さの厳しい夏は集客が落ち込み、冬は完全にオフシーズンに入ってしまう。工事期間約3か月という急ピッチで開発されたワイルドマジックも、事前告知がほとんどできなかったことから、オープン直後の7、8月はキャンプサイ

**開業1か月で
想定した3倍の集客を実現**

このほかキャンプサイトには、トイレ兼シャワー室のコンテナが2か所、センターパークにはハンモックなどが設置され、施設の周囲に置かれたコンテナは外部からの目隠しの役割を担う。オートサイトのため車が施設内を走るが、直線の道をなくしたほか、一度駐車した後は帰宅時まで車の移動を禁止することで安全性にも配慮している。

けるが、そのぶん小学生以下は無料とした。1サイト10人程度の利用を想定し、最大利用はおおよそ15人。宿泊の場合は1人当たり7,000円。コースには飲み物が含まれず、持込みは自由である。

場所貸しコースの場合は、4人までの利用で1サイト6,000円、宿泊では同1万円（5人以上の場合は1人当たり1,000円追加）。もちろんオプションで機材や食材などを申し込むことも可能で、オプションを利用するケースが半数程度を占めるという。



平日夜は会社帰りのサラリーマンも多い



エデュケーションを意識した子ども向けのイベントも実施予定



開放的なカフェ・PITMASTERS

トの稼動が1日平均0・5回転程度にとどまり、秋のピークシーズンに合わせた本格稼動が想定されていた。しかし、これまでにない都市型キャンプ場としてテレビや新聞で取り上げられると状況は一転。直後から一日100件以上の電話が鳴り響き、開業1か月で想定約3倍となる6000人以上が来場している。なかでも、圧倒的に需要が高いのは割

安感のある場所貸しコースではなく、手ぶらコース。休日はファミリー層が中心で、多くは2、3家族が集まる10人以上のグループだ。特に女性の利用者が多いのも特徴で、キャンプがやりたいという潜在ニーズをもちながらも、用意・片づけの煩わしさに二の足を踏んでいたのだろう。また、自転車での来場も多く、メイン商圏は豊洲近郊エリアとのこと。

平日は20歳代、30歳代の若者グループが中心となり、夜は会社帰りのサラリーマンも増加する。現在は休日平均2回転、平日も1回転で推移するが、夜間の利用はそれほど多くないようで、時間設定を

変えるなど調整も行なわれている。

想定を上回る来場によって好スタートを切ったワイルドマジックだが、キャンプ場という特質上、オンピークの5〜10月がビジネスの核となり、同施設においてもその間に4万〜5万人の集客を見込む。ただし、さらなる来場者増・売上増を目指すうえでは冬場の対策は必須といえ、「オフシーズンには、カフェをいかに活用していくかが重要」と原田氏は先を見据える。

もともと氏は飲食業のプロデュースを手がけてきた経験があり、入口付近に設けたカフェ・PITMASTERSでは本格的なアメリカン料理やドリンクを提供している。いまはキャンプサイトの運営に注力するためカフェの宣伝・告知はほとんど行なっていないが、都心からも近い立地を活かせばカフェ単独の需要

も期待されるという。

また、もう一つの天候・冬場対策ともいえる注目のコンテンツがイベントスペース・CONTAINERである。9月以降、アウトドアに関連する講習会のほか、企業やブランドなどとタイアップしたイベントやワークショップなど、話題性のある企画を随時開催していく予定だ。

こうした複合的な要素も含め、原田氏は「ワイルドマジックは単なるキャンプ場ではなく、都会の近くで非日常感が味わえるアーバンアウトドアパーク」であることをあらためて強調する。

また、ワイルドマジックの周囲にはまだ空きスペースもあることから、サイト拡大の可能性もぞかせる一方で、時代のニーズに合い、設置・撤去も容易で、投資も抑えたビジネスモデルを強みに、新たな地での展開も視野に入れる。目安となるのは大都市圏から1時間以内の距離で、最適な広さは3300㎡以上。最も重視するのは特徴が打ち出せる環境だという。

最後に、原田氏は「機会があれば、国内に多数点在するオートキャンプ場の再生も手がけていきたい」と語った。同社では、都心に限らず、地方も含めたオートキャンプ場・キャンプ場などの再生案件の募集を開始した。国内でも新たな旅行形態としてグランピングが定着する日はそう遠くないかもしれない。

2014ヒット予測&2013ヒット商品

個人生活を刺激する
流行情報誌

日経トレンド

半沢直樹
あまちゃん
パズドラ
レイコップ...



100ページ
総力特集



新iPhoneの乗り換えテク

タイガー&
ASOKOで変わる

おしゃれ系・プチプラ雑貨

特別定価 650 円
日経BP社

欧米アウトドアの新潮流

Glamping

(グランピング)

Glamorous (グラマラス) と
Camping (キャンピング) を
かけ合わせた造語

エアコン付きテント、豪華ベッド&ソファ…
手ぶらで快適、プチ贅沢!
ホテルライクなキャンプ&BBQスタイル



カンボジアのメコン川に浮かぶテント風ロジ。室内はホテル仕様

ワンランク上の アウトドアスタイルが普及へ

欧米で流行している手軽で豪華なアウトドアスタイルの提案が、14年に日本でも本格化。「ハレの日」需要を捉えて、定着しそうだ。まず既存のキ

ャンプ場が取り入れる他、リゾートホテルもグランピングの要素を活用。都市部や郊外ロードサイドの遊休地の活用プランとしても広がりを見せる。

リゾートホテル&キャンプ場

伊勢志摩エバークレイズ



④⑤14年3月にオープンする予定のグランピング専用テント。近くに他のテントがないプライベート感のある空間で、トイレ、バス付き。カヌーで遊んだり、本格BBQをしたり、ゆったりと過ごせる施設に

韓国・済州新羅ホテル

済州新羅ホテルは12年にグランピングゾーンを設置。快適な大型テント内でBBQをしながら5~6時間過ごせるプランで、人気を集めている。こうした上質なアウトドアの提案は、日本のリゾートホテルでも増える見込み



都市遊休地& 郊外ロードサイド

ワイルドマジック



3位
豪華で快適なキャンプ&BBQとゴルフ場が初めて融合
全国に広がる上質なアウトドアがハレの日の需要を喚起する

新しい市場 生活の変化 追随商品

ホテル並みの設備やサービスを受けられるテントで、より豪華で快適に自然を楽しむ新しいアウトドアスタイルの「Glamping (グランピング)」が、欧米で広がっている。これは、グラマラス(魅力的な)とキャンピングをかけた造語で、上質なアウトドアの総称として広く捉えられている。

14年は、この流れが日本でも本格化。キャンプ場からホテル、郊外型カフェまで、あらゆる施設がグランピングの要素を打ち出す。近年のアウトドア志向の高まりに加え、消費税の増税後は、日常生活で節約する代わりに、ハレの日には豪華になると予想。料金が多少高くても、本格的におしゃれにアウトドア気分を味わいたいという30代男女やシニアのニーズが顕在化する。

三重県のキャンプ場「伊勢志摩エバークレイズ」は、早ければ14年3月にデザイン家具やダブルベッドを備えた豪華テントを設置。ベッドメーカーや片づけ不要の本格バーベキュー(BBQ)など、ホテル志向のサービスが受けられる。「13年は新設したラグジュアリーログハウスを使って同様のサービスを提供。期間限定で平日中心だったが、予約ではほぼ埋まったという。

東京都江東区にある都市型グランピング施設「ワイルドマジック」も、10月にソファベッドやハンモックを備えた独自の常設テントを3棟導入した。そして実は、このテントを使ってグランピングの要素を取り入れた日本初のゴルフ場が、14年春にオープンする。

舞台は、埼玉県の江戸川沿いにある

KEYWORD

2014年アウトドアのキーワード

●ゴルフ場の二極化

大手のアコーディア・ゴルフは、コースの戦略性を高めたゴルフ場ブランド「トロフィア・ゴルフ」を新設。14年はプレーに特化したカジュアル路線の「エバー・ゴルフ」も立ち上げ、多様化するニーズに対応する。



④トロフィア・ゴルフ第1弾の「石岡ゴルフ倶楽部」(茨城県)。ラフの芝を長めに刈るなど、プロ仕様にも⑤カジュアル路線のブランドも展開していく

●スタイリッシュ・ワークウェア

DIYや農作業などで着用するウェアが進化。東急ハンズはビームスと共同でワークウェアの新業態「ワークハンズ」を開発し、大型店4店で売り場を作った。14年には単独路面店の出店も計画。モンベルは農業向けウェアを14年春に投入する予定だ。



④衣料だけではなく雑貨も展開⑤普段着としてもおしゃれな仕様に

ゴルフ場の“大自然”とグランピングが融合

14年春オープン

アウトドア・スポーツ・パーク 越谷 (PGMホールディングス)

ゴルフとグランピングテント&BBQを核に、ランニングステーションやレンタサイクル機能も加えた総合施設にリニューアル。ゴルフ

コースは18ホールのスループレーで、初心者でも楽しめるレイアウト。移動に便利な2人乗りカートでフェアウェイも走行できる。

ゴルフコース脇で本格BBQ



⑥石炭さきいながらコースを眺めながらBBQができる。場を盛り上げるイベントも開催予定



④建て替え後のクラブハウスのイメージ⑤クラブハウス屋上にワイルドマジックと同じ常設テントを設置。BBQ終了後は片付けが不要で手軽



④肉の塊を豪快に食べる⑥鶏肉をビールの缶に差して丸ごと焼く「ビア缶チキン」。デザートは定番の焼きマシュマロ

クラブハウス屋上に豪華テントを設置



注) ワイルドマジックで撮影した

業界大手PGMホールディングスの越谷ゴルフ倶楽部だ。施設の老朽化を機に「アウトドア・スポーツ・パーク 越谷(仮称)」としてリニューアルする。新クラブハウスの屋上テラスには、ワイルドマジックと同じ常設テントを5〜6棟設置。河川敷の爽やかな風を感じながら、特製のシーズニングで味付けした分厚い塊肉などの本格的な米国式BBQを楽しめる。「週末は階下のダイニング&カフェを24時間営業にし、屋上のテントで夜通し遊べるようにしたい」と、プランを提案したスバープロジェクトの原田康弘氏は話す。ゴルフコース脇の芝生にも10カ所のBBQサイトを設置。これまでゴルフアが独占していた「大自然」を一般の人にも開放する試みだ。「ゴルフ場は若い世代を獲得しないと早晚立ちゆかなくなる。グランピングを媒介にすれば、若い世代のゴルフ合コンや、ゴルフを終えた夫が家族サービスで本格BBQを振る舞うなど、新しいシーンを生み出せる」と、PGMホールディングスの神田有宏社長。同社は今後、年間2〜3件ペースで全国のゴルフ場クラブハウスのリニューアルを行う計画で、「グランピング・ゴルフ」の展開も進めたいという。大手の新サービスに触発され、他社の追随もあるだろう。ゴルフ場以外でも、「東京のファッションエリア、大阪の臨海エリアなどにある遊休地や、地方のリゾートホテルにグランピング施設を展開していく」と原田氏。都市も地方も巻き込み、上質なアウトドアが全国で定着する。

知らないで損する投資、預金、保険、税金

ネット被害者にならないための

個人生活を刺激する
流行情報誌

日経トレンディ

最新対策集

TRENDY



SEPTEMBER 2013

9

アベノミクス第2幕で変わる!

お金の話

金利が高い**定期預金**

これから上がる**日本株**

株主優待で金券を狙う

税金がかからない**教育信託**

得な**保険**ランキング

どうする? **住宅ローン**

最新版**コンビニ活用法**

不正アクセス、個人情報流出、SNS炎上を防ぐ

**パスワード、
カード情報管理術**



日本バイオニア列伝



野茂英雄
インタビュー

定価 **550** 円
日経BP社



New Zealand

Minaret Station

南島に位置するニュージーランド初のラグジュアリーテントロッジ。移動はヘリコプターのみ。3食付きで1室当たり1泊約27万3000円(2泊以上)。



欧米で
大ブーム!

Glamping (グランピング)



Cambodia

4Rivers Floating Lodge

熱帯雨林が広がるメコン川に浮かぶ豪華テント風ロッジ。室内は空調が利き、Wi-Fi、テレビも完備。1室1泊約1万1900円(2泊以上)。



TREND UPDATE

Vol.4

レジャー

キャンプの新潮流 グランピングとは?

④テラスからは人工物が一切ない壮大な景色を見られる
⑤床暖房付きの室内にはキングサイズのベッドを配置。室内バスルームの他、テラスにも簡易ジャグジーがある



Glamorous (グラマラス)と
Camping (キャンピング)の造語

エアコン付きテント、豪華ベッド、本格BBQ…
ホテル並みの設備&サービスで
大自然を楽しむ新しいキャンプスタイル



USA

Big Sur Getaway

カリフォルニアの景勝地、ビッグサーの海岸沿いにあるトレーラーハウス型の施設。1室1泊約1万7000円。



手ぶらで行ける豪華・快適キャンプ
アウトドアもファッション感覚に

キングサイズのベッドや屋外ジャグジー、アメニティ付きの洗面台、暖房を備えた豪華なテント風ロッジ。山々が連なる絶景を目の前に、シェフが腕を振るった高級料理を堪能する。

こうした高級ホテル並みの設備やサービスを受けられる施設で、より簡単に、快適に大自然を楽しむ新しいキャンプスタイルが欧米で広がっている。その名も、「Glamping (グランピング)」。グラマラスとキャンピングを掛け合わせた造語だ。専門サイトの「Go Glamping」を運営するガリ・レイナー氏は、「グランピング施設は1泊約27万円の最高級タイプから同約5000円とリーズナブルなものまでさまざま。いずれも自前のテントや寝袋がいらず、手軽に出かけられる上質なアウトドアレジャーとして受け入れられている」と話す。

実は今年、この流れが日本にも波及。長引く不況を背景に「安近短レジャー」として定着した従来のキャンプに対し、少し値は張っても、より快適に簡単にファッション感覚でアウトドア気分を楽しみたい。そんな新たなニーズに応えた日本版のグランピング施設が続々とオープンしているのだ。

三重県のキャンプ場「伊勢志摩エバーグレイズ」は、敷地内の大きな池に面して3棟のラグジュアリーログハウスの「カリフォルニア」を4月にオープン。開放感のあるウッドデッキにはデザイン家具やハンモック、池が望めるバスルーム、冷暖房付きの室内にはダブルベッドなどが用意されている。

この施設で展開する特別プランが、



伊勢志摩エバークレイズ(三重県志摩市)

豪華ログハウスが4月にオープン
9月からグランピングプランを企画

伊勢志摩国立公園内にあるキャンプ場。4月に新オープンしたログハウスを使い、BBQや各種アメニティをセットにしたグランピングプランを展開(2人利用の場合は1人1泊1万3000円〜)。1日1組限定で9月2日〜10月末の主に平日に実施。



1夕食のBBQは風通しの良いテラスで食べられる。グリルの設置や食器の配膳までスタッフが行う2ベッドメイキングのサービスもある3朝食は無料。フレンチトーストやコーヒーが振る舞われる

伊勢志摩のホテルも
グランピングを志向

「合歡の郷ホテル&リゾート」(三重県志摩市)も大自然に囲まれてくつろげるラウンジ、カフェスペースを7月に開業した

キャンピングカーも
ホテル仕様に

トヨタ自動車のハイエーススーパーロングDXが、ホテルの部屋をイメージした豪華キャンピングカーに様変わり。川崎市のサコスが、レンタカー用に導入した。1日2万6250円(レギュラーシーズン、土日・祝日)で借りられる。



⑤キャンピングカーの展示会で人が殺到⑥車中泊でも我慢しなくていい広さと快適さ



ワイルドマジック(東京都江東区)

都心にあるまれなアウトドア施設
今秋から常設の豪華テントを設置

ゆりかもめ新豊洲駅前の都市型アウトドア施設。スモーク料理のカフェやオートキャンプ場を併設し、フルセット1人4500円〜(大人4人以上)で本格BBQを楽しめる。今秋からグランピングテントを3棟設置し、宿泊プランも強化。



1

1グランピングテントの模型。屋根付きテラスでBBQができ、室内にはソファベットの完備2都心の夜景が見られる絶好のロケーション3夏から屋外タイプのジャグジーを設置4ビールでコクを出す「ビア缶チキン」5分厚い肉をグリルでゆっくり焼き上げる



2



3



4



5

専用アメニティやベッドメイキングなどホテル志向のサービスが受けられるグランピングプランだ(9月2日〜10月末まで。主に平日)。いち早く体験したが、日中は屋外のハンモックに揺られたり、暑くなれば部屋のクーラーで涼んだりと非常に快適。個人で行うBBQは市販の焼き肉のたれ一辺倒になりがちだが、ここでは特製グリーンバターやバジルを使う凝ったBBQを開放感のあるデッキで食べられる。食器は専用ボックスに入れておけば後で回収されるなど、手間いらずだ。

エバークレイズは今後、トレラーハウスにまきストーブを設置して冬期プランを展開する他、来年には専用のグランピングテントを新設するという。世界を見渡しても珍しい、都市型のグランピング施設を目指すのが、東京・銀座から僅か3kmの新豊洲に昨年オープンした「ワイルドマジック」だ。企画したスーパープロジェクトの原田康弘氏は、「秋からはソファベッドなどを備えた常設のグランピングテントを3棟導入。スカイツリーや東京タワーも眺められる都会の大自然を売りに宿泊プランを強化する」と言う。

プランの目玉は、本格アメリカンBBQ。米国では定番の、半分ほど飲んだビール缶に鶏肉を丸ごと差して炭火で焼く「ビア缶チキン」やデザート「焼きマシユマロ」などを堪能できる。「今後は大阪などの大都市や、地方のリゾートホテルへの進出を検討していく」と原田氏。こうした動きに触発され、既存のキャンプ場を中心にグランピングを打ち出す施設が増えるだろう。